

官民合同研修

～ ニート、ひきこもり等の子ども・若者の相談業務に従事する相談員研修～

日時・研修会場	9:30	12:00	13:00	13:30	13:45	15:30	17:00
3月14日 (月) 13:30～17:00 (日本学術会議 講堂)				開 会 の 辞	・鼎談 (ディスカッション) 『教育分野と就労支援機関との連携』 ＊松田 考 (さっぽろ若者サポートステーション 統括コーディネーター) ＊宮本 みち子 (放送大学教養学部教授) ＊村越 和弘 (東京都立一橋高等学校長)		五十音順
3月15日 (火) 9:30～17:00 (新宿 ワシントンホテル)	ひきこもり・たてこもりへの家族支援 中村 伸一 (中村心理療法研究室長)			分科会A (研修生が1つを選択) (30名程度で編成)			
成人期の発達障害への支援 石橋 悦子 (東京都発達障害者支援センター主任支援員)							
貧困問題の理解と支援方法 岡部 卓 (首都大学東京都市教養学部教授)							
3月16日 (水) 9:30～17:00 (新宿 ワシントンホテル)	地域におけるひきこもり支援のスキルアップをめざして ～相談の視点と方法, 連携・協働の工夫と展開に焦点をあてて～ 長谷川 俊雄 (白梅学園大学子ども学部子ども学科教授)			分科会B (研修生が1つを選択) (30名程度で編成)			
思春期・青年期における自閉症スペクトラム障害 ～障害理解と自立への支援・課題～ 熊代 奈津子 (多摩総合精神保健福祉センター生活訓練科長)							
不登校をめぐる現状への支援 伊藤 美奈子 (慶應義塾大学教職課程センター 教授)							
3月17日 (木) 10:00～17:00 (国立リハビリ 記念青少年 総合センター)	班別討論 (5班) 10:00～12:00 討論 13:15～15:15 討論 15:30～16:30 討論内容の発表 16:30～17:00 講評 宮本みち子 (放送大学教養学部教授)						
3月18日 (金) 9:30～12:45 (内閣府本府 講堂)	9:30	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> パーソナリティ障害について 林 直樹 (東京都立松沢病院精神科部長) </div>			11:00		
	11:15	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 内閣府や東京都のひきこもり実態調査から 読み取れること 高塚 雄介 (明星大学大学院人文学研究科長) </div>			12:45		

< 各分科会テーマと内容 >

分科会A：3月15日(火) 9:30～17:00

ひきこもり・たてこもりへの家族支援【中村伸一（中村心理療法研究室長）】

「ひきこもり」は一般に社会からの撤退を示す用語として定着している。私はさらに「家族からもひきこもる」人々を「たてこもり」と称している。家族との交流さえ拒み、時として敵対的さえある人々である。このような「たてこもり」は「ひきこもり」の人々の中になんか見られるのではなからうか。精神科医であり家族援助を専門とする私の立場から皆様の経験を拝聴しながら対策を述べてみたい。

成人期の発達障害への支援【石橋悦子（東京都発達障害者支援センター主任支援員）】

当センターにおける相談事例のうち、20～30歳代に関する相談が全体の5割を占め、その多くが社会の中で周囲の人との関わりもなく孤立した状態にある。特に自閉症スペクトラム障害の人の場合、知的・言語能力の如何によらず、家庭や学校、職場等社会において、当然の如く求められる他者との調和や協働ができにくく、極めて常識的と思われることができないことから、諸種の生活困難(生きにくさ)を生じている。支援者に求められることは、障害の特性理解のみならず、彼らの生活に関係する諸条件を広く捉え、支援のあり方を試行・検討していくことと考えられる。分科会では、当センターにおける取り組み事例をもとにディスカッションを行う。

貧困問題の理解と支援方法【岡部 卓（首都大学東京都市教養学部教授）】

貧困は、経済的困窮を基底として個人/家庭に様々な生活問題をもたらします。そこで、本演習では、前半では、貧困とは何か、貧困問題のあらわれ方、貧困問題の対処方策としての制度がどのように配置されているのかについてお話しします。そして後半では、前半の理解に基づき貧困者により添う支援としてどのようなことが考えられるかその基本的理解を図ると共に、具体的事例を素材に実践方法について検討していきます。

分科会B：3月16日(水) 9:30～17:00

地域におけるひきこもり支援のスキルアップをめざして

～相談の視点と方法、連携・協働の工夫と展開に焦点をあてて～

【長谷川 俊雄（白梅学園大学子ども学部子ども学科教授）】

ひきこもり当事者とその家族への支援の困難さには、当事者へのアクセス、ゴール設定、親の高齢化、支援の長期化、活用できる社会資源の少なさなどがあります。地域の公的相談機関・NPO法人などの援助職にとって必要となるひきこもり支援の視点と方法について、ソーシャルワークの方法と技術を踏まえた講義と演習によって取り組みます。日常のひきこもり支援への汎用化・実践化を目標に置くため、演習はグループワークやロールプレイなどの方法を用いたワークショップ形式で行います。

思春期・青年期における自閉症スペクトラム障害 ～障害理解と自立への支援・課題～**【熊代 奈津子（多摩総合精神保健福祉センター生活訓練科長）】**

「ひきこもり」「ニート」「不登校」の問題を扱う上で、社会適応をうながす従来の手法には限界があり、現行の診断基準をみたまない発達障害概念の理解が役に立つことがある。とくに自閉症スペクトラム障害(ASD)が存在する場合は、特性の見立てとそれに沿った目標設定が重要である。引きこもり群に見落とされがちな特性や、緘黙症、社交不安障害、回避性人格障害などのC群にもみられる発達障害の特性を拾う見立ても紹介したい。午前中は講義を行い、疾患特性の組み合わせと理解、ASD概念と展開、隠れた生活障害、見立てのポイント、関わり方の応用、困難と限界について述べる。午後は2、3の事例をもとにグループディスカッションを行う予定。

不登校をめぐる現状への支援【伊藤 美奈子（慶應義塾大学教職課程センター教授）】

学校現場における不登校の実態を紹介するとともに、具体的な支援の実際について議論したい。

- 不登校の変遷 - 学校恐怖症・登校拒否・不登校
- 不登校に対する基本姿勢について
- 不登校の子どもの気持ち(事例・データ・エピソードから)
- 不登校の子どもを持つ親の気持ちと支援
- 校内での取り組み(チーム支援)
- 専門機関との連携(連携のあり方をめぐって)